

FMU-IAEA 国際学術会議に参加しました

福島県立医科大学と IAEA の主催による「FMU-IAEA 国際学術会議 ー放射線と健康と住民：多角的視点による福島の震災復興ー」が福島県，広島大学フェニックスリーダー育成プログラム，長崎大学福島未来創造支援研究センターの共催により 7 月 25 日から 27 日まで福島県立医科大学で開催され，本プログラムから，岡本哲治プログラム責任者，神谷研二プログラムコーディネーター，谷川攻一プログラム担当者が講演を行うとともに，大学院生 6 名が参加しました。

福島における放射線災害による住民への健康被害を考えると，その対応には医療面の知識だけでは十分でなく，復興のための科学技術，社会科学，人文科学の専門知識も含めた分野融合的な取り組みと医学教育の改革の必要性が昨年までの会議で議論されており，今回の会議は IAEA をはじめ，日米欧，アジア，アフリカ各国から，医学，心理学，STS（科学技術社会論），歴史，教育等，多分野にわたる専門家と日米の学生計 43 名が課題の解決に向けて経験や知見を共有し，議論する場となりました。

また，本プログラムの大学院生 3 名は，学生発表セッションで各自の研究内容や今後の目標を述べるとともに，日米の他大学の学生と学生討論会に参加し意見を交換しました。日頃の研鑽の成果を発揮する一方で，専門家から質問やアドバイスを受ける貴重な機会となりました。また，聴講した学生も積極的に講演者に質問し，議論の発展に貢献しました。



口頭発表する大学院生